

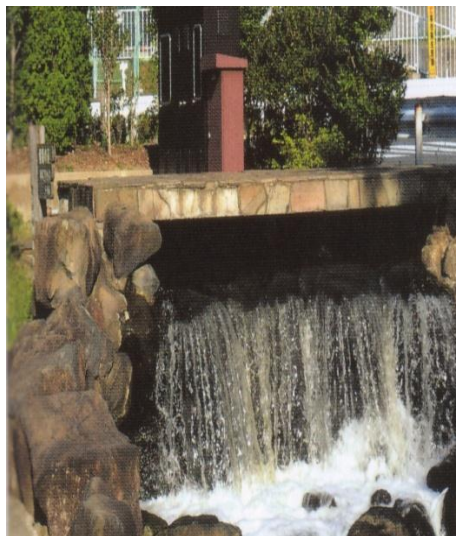
さ こんがわ しん さ こんがわ
左近川 ・ 新左近川

江戸川区は、河川に囲まれています。西に旧中川・荒川・中川、中央を南北に新中川、東に江戸川が、南部には新川しんかわが流れています。さらに、その南には東京湾が広がっています。

左近川さこんがわは、そのような江戸川区の低地帯の最南端を流れる、江戸川の分流の一つの河道かどうの跡です。現在、川らしい流れはありませんが、古地図にも「古江戸川」とあるように、昔は江戸川



左近川の河口付近(船着き場の漁船)昭和29年



左近川と新左近川の境にある水門

の流れでした。旧江戸川から江戸川区東葛西九丁目と同区南葛西七丁目の間で分流し西に流れ、同区臨海町三丁目地先で新左近川(新左近川親水公園)のボート場へとつながっています。延長1.92kmです。

葛西においては、長島川りんかいちょうと並んで中世以来の湊みなととして、また近世において漁業が盛んに行われた頃の河口は港としてのつとめを果たしており、この地方の要所でした。「左近」とは人名だと考えられています。

新左近川は昭和47年(1972)から始められた

葛西沖開発土地区画整理事業の中で、葛西地区を流れる左近川と長島川からの水流を荒川河口に放流するために造られた人工の水路です。新左近川の規模は、延長1.4km、面積14.8haで広い水面と大きな河川敷があります。



新左近川親水公園(平成20年春)

平成元年(1989)、新左近川沿いに残されていた、かつての海岸堤防約1.3kmが取り壊されました。そ

して、多くの区民から望まれていた“水とのふれあいの場”として整備することにしました。区では、新左近川を遊水都市の核として位置づけ、豊かな自然と広大な水面を活用した新しい親水レクリエーションの場を創造することを基本として計画を立案しました。

新左近川の水路は、新左近橋をはさんで上流部に大きな水路が広がり、下流部の直線的に荒川に流れる水域に二分されます。区では、上流部の入江に係留されていた、約170隻のプレジャーボートと50隻の漁船を河口側に移動したうえで、下流部(西側)を「新左近川マリーナ」とし、上流部(東側)は広い水域を活かした「新左近川親水公園」として整備しました。

このようにして新左近川は自然に満ちた水辺環境を活かし、ボート場をはじめ、デイキャンプができる芝生広場、じゃぶじゃぶ池、サッカーやイベント会場などとして使える多目的広場、さらに地下駐車場を整え、遊水都市の市街地にふさわしい景観を備えた新しい河川に生まれ変わりました。

注：長島川

江戸川区の南西部を流れていた延長2.9kmの小河川で江戸川区長島町の西部を流れていました。平成元年(1989)6月に親水緑道「葛西親水四季の道」に改修されました。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)